



抜けるような青空を見上げると、空の高さに引かれるように、知らずに背筋も引き上げられるような気がします。まわりついていた空気の重さが取り払われ、空も水も一段と澄んで、本来の清々しい姿を見せてくれているようです。誰もが自然に、自分自身の姿と向き合う季節。ミカエル祭の時期が来ました。

\*\*\*\*\*

## 【大人のミカエル祭】

\*野ばら第 19 号「キリストとミカエル祭」をこの機会にお読みください\*



9 月 29 日（土）、この日はミカエルの日でした。このミカエルの日に私の敬愛する恩師、アンドリュー・ウォルパート氏（以下敬称を略してアンドリュー）によるミカエル祭についての講演を含む「大人のためのミカエル祭」が十日市場校舎のオイリュトミー室で行われました。

この祝祭に参加なさった方はおわかりになったと思いますが、アンドリューは私が「敬愛する」と形容したように一瞬にして出会った人を魅了してしまう魅力を持った人です。ですから彼に今まで教わったり、日本での講演やワークショップに参加したりした生徒さんやお友達も、今回の集いにたくさん来てくださいました。

プログラムは最初に私の挨拶、教員による歌、アンドリューの講演（シュタイナーの詩の朗読を含む）、質疑応答、最後にもう一度教員による歌、という流れでした。

アンドリューに出会ってからもう 27 年が過ぎました。アントロポゾフィーの A の字も知らなかった私が、運命の導きとしか考えられない流れに乗ってイギリスに行き（これも誕生以前に自分で決めたことなのですが）、彼のサマーコース“Spirit of English”に参加したのが始まりでした。それから 27 年間、私はアントロポゾフィーを学びつつ、シュタイナー学校の教員という仕事につきました。アントロポゾフィーへの門を開いてくれたのがアンドリューだと言っても過言ではありません

ん。アンドリューをはじめ、その他の素晴らしい人々との出会いと、それらの方々がアントロポゾフィーを携えて生きていることを知った私には、アントロポゾフィーに対する揺るぎない信頼が生まれました。このような出会い方でなければ、きっと私はアントロポゾフィーを訳のわからない眉唾ものの新興宗教まがいなものとして一蹴していたことでしょう。そんな大切な出会いをくれたアンドリューの講演は以下のように始まりました。

「秋にやって来るミカエル祭は一年間の祝祭の流れの中で対極にある春の復活祭と関連させて考えなければなりません。復活祭はキリストが金曜日に磔刑（たっけい）になり、日曜日に死を克服して復活したという外的な事実によって祝われます。しかし、ミカエル祭は外的なものではなくひたすら個人的な内面の祝祭です。」

私たちは学園で子どもたちとミカエル祭を祝う時、「勇気を与えてくれる象徴」としてミカエルについてのお話をします。アンドリューは言いました。「シュタイナー学校という大勢から外れた学校に、自分の子どもを通わせようと決意した保護者の皆さんは、勇気失くしてはできないことをしたのです。」

その通りです。シュタイナー学校に関係している者たちはすべて今の日本では勇気ある人々です。

しかし彼は続けました。「でも、皆さんは子どもたちの未来を信頼する勇気はありますか？子どもたちにあなた自身が想像できる幸せな未来を選んでほしいと願ってはいませんか？苦しむであろう困難な道は避けさせたいと思いませんか？」

親なら誰でもそうしたいでしょう。先日の校内研修に来てくれた卒業生も言っていました。「なぜシュタイナー学校に 12 年間も通わせてくれたのに、高校を卒業したら大学に行ってほしいと願うのですか？」大学だけが人生の王道ではありませんが、それを願ってしまう親の気持ちは理解できます。日本という文化の土壌がそうさせているのかもしれませんが。

～中面へ続く～

問題や困難の中で人は「悪」の片鱗に出会うこともあるでしょう。そしてそれは外にあるように見えても実は自分の中にある弱さや欠点を見つめていることに気づくでしょう。アンドリューはラファエロが描いた2種類の絵を紹介しました。一つは聖ミカエルが竜を抑えつけているもの、もう一つは聖ゲオルク（ジョージ）がお姫様を救って竜を殺しているものです。



聖ミカエル



聖ゲオルク

「子どもにとってのミカエル祭は悪い竜をやっつける聖ゲオルクのイメージで良いですが、大人は聖ミカエルのように自分の中の竜を抑え、変容させて善きものにしなければなりません。それは天上界の存在にはでき得ないこと、地上の人間だけに可能なことなのです。しかも絵にも描かれているように竜は一匹や二匹ではありません。そして、人間のその行いが天上界に善きものを運び、霊的存在たちはそれを待ち望んでいるのです。」アンドリューの話は続きます。

「子どもたちは困難の中で自分と向き合い、自分を変容させることで成長し叡智を身につけて自分を進化発展させます。それは子どもたちが生前に選んだことなのです。」

だから私たちは子どもたちの運命を信頼して見守り、陰ながらいつでも力添えできる準備をしていれば良いのです。自分の産んだ子だったら、私はもしかしたら母子一体して過保護・過干渉な、子どもにとって迷惑な母親になってしまうかもしれません。しかし学園の子どもたちはちょっと客観的に見るできるので、私の立場は「どんなことが起きても彼らの味方である」ということだけを心がけています。

後半の講演ではルドルフ・シュタイナーが晩年に人智学協会の会員に示したミカエルの詩と、死の直前に、彼の主治医でもあり同志でもあり盟友でもあったイタ・ヴェーグマンに示したミカエルの詩の紹介があり、前者の日本語訳を教員たちが朗読しました。

最後にアンドリューは言いました。「シュタイナー教育はどんな子どもにも良いし、より多くの子が体験できたら良いと思います。しかし私たちの使命は世界中の学校をシュタイナー学校にすることでもありませんし、アントロポゾフィーを広めて啓蒙することでもありません。興味を持った人には聞かれた質問だけに簡潔に答えれば良い。説明しすぎないことは大切です。」

「来年でシュタイナー教育は100周年を迎えますが、今のままのやり方に教員たちが固執していたら次の百年は続かないでしょう。時代にふさわしい形で欠かせない根幹を守った上でシュタイナー教育も変容させる必要があると思います。」

いつ会っても、どんな話をしてもアンドリューは私に熱と勇気をくれます。終了後に何人かの保護者の方から「ぜひまた、アンドリュー先生の講座を学園で行ってください！校内研修でも良いと思います。」とのご要望を頂きました。次の来日の情報が入ったら、学園主催の公開講座ができないか検討したいと思います。お楽しみに。

4年生担任 神田昌実

\*\*\*\*保護者の感想\*\*\*\*

大人のミカエル祭に参加して

「大人のミカエル祭」という響きに、こどものようにワクワクした気持ちで参加しました。

学園の先生方の美しい歌声で気持ちが暖かくなり、アンドリュー先生のお話は、とても素晴らしくユーモアがあり、英会話のダメな私でもわかりやすい英語で話して下さい、ありがたいひと時でした。

一番印象に残っているのは、「ミカエルの言葉」の中にある「キリストの使者」と「キリストの告示者」という話です。先生は、丁寧に使者と告示者の違いを説明して下さいました。過去に聖夜劇にて、天使ガブリエルを演じた際の私は、「使者」でしかなく、「告示者」ではなかったなと感じたことです。いつかまたガブリエルを演じる際には、少しでも「使者」に近づけるように、光の言葉を届けることができるようにミカエルの季節から、自己の弱さを見つめ聖夜劇の季節を過ごしたいと思います。

## 5年生 山の学校に参加して

10月8、9日に、愛川ふれあいの村にて、5年生の山の学校が開催されました。



10月8～9日に行われた5年生の山の学校に引率補助として参加してきましたので、その様子をご紹介します。

朝6:30に十日市場駅に集合し、町田駅で合流、荷物を光輝のお父さんの車に預け一行は小田急に乗り込みました。本厚木で浜本先生と合流し、一行は宮ヶ瀬行きバスに乗ります。

宮ヶ瀬に着き、宮ヶ瀬のお話を聞く川瀬さんのお宅に向い、宮ヶ瀬のダムが出来前、川瀬さんが子どもの頃の川遊びのお話を聞きました。その後、川瀬さんのご近所のウリ坊の時から飼っているイノシシを見せて頂きました。

その後、宮ヶ瀬湖に掛かる吊橋を渡り、遊覧船に乗り宮ヶ瀬ダムに到着しました。遊覧船では子どもたちは、後ろの屋外の席に座り宮ヶ瀬湖畔を堪能しました。ダムに到着し、資料館でお弁当を食べ、そしてダムの展望台でダムの眺望を眺め、その後エレベーターでダムの下に降りました。石小屋ダムの脇を通り、川縁を散策し、愛川ふれあいの村に歩いて向かいました。

ふれあいの村に到着し、入村式を終えて一息ついたら今後は夕食の準備です。炊事場へ移動し、2班に別れて火起こしをします。お父さんチームはここで、キャンプファイヤーの準備で戦線を離脱し、準備を終えて戻ると、カレーの準備が出来ていました。皆で頂きますをして、それぞれの班で作ったカレーを頂きました。



竈の焚き火は一つに対して、カレーの鍋とご飯の鍋を二つ同時に調理するという難しさもあり、一つの班はカレーがよく出来ていた反面、ご飯の芯が残り、もう一つの班は、その逆でご飯は美味しく炊けていたのですが、カレーの方の玉ねぎがシャリシャリしていました。うまく行かなかった事はきっと次は上手く出来るようになるための糧になったのではないのでしょうか。それでも、みんなで作ったご飯は、出来はともかく子どもたちは美味しく食べました。

ごちそうさまをして後片付けをしたら、お待ちかねのキャンプファイヤーです。浜本先生扮する火の神の登場で幕を開け、各班の班長の遼介と悠希がそれぞれ希望の火と協同の火を松明に灯し、キャンプファイヤーに点火しました。西尾先生のインストラクションで沢山の歌やダンスをしておおいに盛り上がりました。



2日目の朝食は、ビュッフェ形式で食べ過ぎ注意との話もありましたが、子どもたちは食べ過ぎることもなくそれぞれ美味しく頂きました。宿泊したロッジを清掃したら、いよいよ高取山登山です。丹沢は山ヒルが出るので念入りに塩を靴下や靴に刷り込み出発しました。台風の影響で、予定していた登山口が使えないので、迂回しての出発でしたが、無事に予定していたコースに合流しました。途中2回の休憩を挟みかなりのハイペースで山頂に到着しました。山頂からの眺めは眼下に神奈川県下、多摩丘陵を望み、反対側は昨日巡った宮ヶ瀬湖畔を一望する事が出来ました。途中勘助とレイラが山ビルに血を吸われるハプニングもありました。山頂でお弁当を食べ、下山しました。

下山後、愛川繊維会館に歩いて向かいました。繊維会館で機織りと組紐の体験をして、バスに乗り帰路に着きました。(一杯書きたい事がありますが、紙面の関係で後半は端折りました。)

子どもたちの初めてのクラスとしてのお泊まりを経て一回り成長した過程を一緒に過ごす事ができて、とても幸せな引率でした。

# インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

## 2019年度入学説明会（二次）

11月17日（土）[A] 14:00～16:00 霧が丘校舎  
12月8日（土）[B] 10:00～12:30 十日市場校舎

※2019年度に入学をご希望の方は、A→Bの順で両方の  
回に必ずご出席ください。

※面接予定日は2019年1月19日（土）です。

## アドヴェントのつどい

クリスマスを中心にする時期、

美しく飾られた学園をお楽しみください。

入場無料。どなたでもお越しいただけます。

日時：12月2日（日）10:00～15:00

場所：霧が丘校舎

\*詳細は学園 Web サイトでご確認ください。

## 8年生劇「冬物語」

日にち：11月22日（木）、11月23日（金祝）

場所：岩間市民プラザ

詳細は、学園サイトで公開していきます。

## 2学期 月例祭

ご希望の方に公開しております。ご興味のある方は、  
この機会にぜひご参加ください。

日にち：12月15日（土）

会場：緑公会堂

詳細は、学園サイトで公開していきます。

参観ご希望の方は、電話、FAX、またはメールにてお  
申し込みください。

## 2018 緑・芸術祭

### 聖夜劇

キリスト生誕劇

日時：12月23日（日）13:30 開演（13:00 開場）

会場：緑公会堂（緑区総合庁舎内）

観劇料：おとな 900円（高校生以上）、

こども 600円（年長児～中学生）

\*対象年齢 年長児以上

\*対象年齢に達していないお子さんは入場できません  
ので、ご注意ください。

\*観劇ご希望の方は、電話、FAX、またはメールにてお申  
し込みください。観劇料は当日受付でお支払いください。

## ☆星の金貨より☆

くるみのアドヴェントカレンダー手作りキット2018は、完  
売いたしました。ご購入いただけなかった皆様にはお詫び申  
上げます。

また、来年どうぞよろしくお願いたします。

12月2日のアドヴェントのつどいでは、クリスマスのお茶  
やアドヴェントカレンダー、ポストカード、その他クリスマ  
スプレゼントにふさわしいお品物をたくさんご用意してお待  
ちしております。

お問い合わせ e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>

ご支援ありがとうございます。  
大切に活用させていただきます。

◎ご寄付・・・加藤洋子様、保育グループの皆様、  
寺尾昭彦様、poco a poco 様、  
星の金貨様

心より感謝申し上げます。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: [gakuen-info@yokohama-steiner.jp](mailto:gakuen-info@yokohama-steiner.jp)

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番 029 支店名 029店（せのきわい店）当座 013702



横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第115号～

2018年10月23日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします